

107

寛永諸家譜

藤原氏 庚二冊之内二
長良流 長方流 師尹流

| | |
|------|-----------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 20199 |
| 冊數 | 186 (107) |
| 函號 | 76 1 |





有馬

大村

糟屋

堀内

浪谷

寛永諸家系圖傳

藤原氏

庚二 小家

長良流

有馬

大藏冠六代
冬嗣

右大臣

右大将

正二位

贈大政大臣

正一位

閑院大臣

号々

淺草文庫

長良 ながら

右遠侍 みぎのゑんじ

中納言 なかつなごん

正三位 ただの三位

贈大政大臣 おくりおほまじ大臣

正一位 ただの一位

遠經 とよつね

右大辨 みぎのたひん

従四位上 したがひのよつ

藏人頭 くらねがし

良範 りょうはん

筑前守 つくねのりもり

太宰少貳 たざいのせうじ

純友 じゆんとも

伊豫掾 いよのせうぜん

直澄 なほすみ

従五位下 したがひのいご

遠江権守 とほのえのりもり

諸澄 もろすみ

永澄 ながすみ

清隆

遠隆

幸隆

源隆

友隆

家隆

右衛門尉

三郎右衛門尉

連隆

貞隆

右衛門尉

上総權介

隆世

満隆

宮内少輔

氏隆

右衛門尉

貴純たかし

右近将監みぎのちか

肥前守ひぜんのかみ

尚鑑たかみ

左半尉ひだりはんゑ

晴純はるきよ

修理大進しゆりおほしん

義直よしなお

修理大進しゆりおほしん

將軍義晴しんぐんよしかずの諱なづかひ此字このあざなと稱なづかひす

將軍源義晴しんぐんげんよしかずの諱なづかひ乃字このあざなと稱なづかひす

純忠じゆんしゆ

民部卿たみべのうぢ

大村おほむらの養子やしなひこ

貞負

左衛尉

千々石の兼子

盛

五郎

松浦丹後の兼子

孝童丸

志波の兼部の捕頭の兼子

肥後の天原

信の兼子

義純

太郎

將軍義昭の義の字と兼子

藤臺丸

松浦波多の兼子

晴信

依理の兼子

野長の兼子の石田の成謀の兼子

東照大権現の兼子

加茂肥後守清正と共々小西行長ら
所領の宇土の城と攻めし時信長
目盲しつゝつて是を依直純
又つてつて軍事をつとむ北
とき正純十五歳なり

同十四年

大於現の厳命とつてつて長崎
とつてつて南蛮の商船とつてつて
つてつてつてつてつて

同十七日

大於現の御勘定とつてつて厳命
につてつて翌年の春甲州郡内
つてつてつてつて

正純

石橋

正純十五歳

大於現
つてつてつてつてつて

学長十五〇 歳命了りしとく
中多美徳有り娘と娶り此とき長光
御膳物と給ふ

月十七日

又控現四万石の来地と給ふ母と
詢衆有りて此處に父刑有りて
これ法とつぎ一統給ふと例なりと
いへども正統幼年より所之を
すけり且父と不和ありしきに

りしとて新しき来地と給ふ父
を跡と給ふはあはれ

同年より一人の宗つに制禁の
とて肥前高来郡のらりし彼

宗つの子をこれなりしを名懸
達と仰りしなりし律古宗のゆつ

美通意と云来の郡す好ま
これ法といふ免しむかろぐゆへ

さすし一人の郡流しれ愛むる候

宗方と蒙せうふも此れをばこれと
珠と

同十九年一百二千石此れ日向守
とひくをりるふりる惣と

二百二千石と領と

同年大坂御陣の時さ
不多每徳と

とゆらとくを陣と凱旋の時と

御物とゆり領地と一休と

豊と大坂御陣の時さきと

教命とゆり日向とありて

これ地とゆり子

寛永九年か若肥後守頼國の時

將軍家の御とゆり肥後守頼國の時

八代の城とゆりこれとまら

同年の冬肥後の守と細川頼中と

忠利とゆりこれとゆり

正純八代と忠利とゆり

同十年肥前守鴻原一揆時と

望年正月十二日 叡命とあり

少くは戸ももぐりな流るよおし

いく

同十八日四月廿五日一卒と

康純

苑人

元和二日康純の歳月とあり

うりては戸ももぐり

寛永二年

台酒院殿

將軍家沙入流りとき康純の歳月

八月流りしとき九月朔日

二位下り叙と

同月二條亭り行事

將軍家沙入りしとき御泰内此所

康純侍年をつとむとき一十歳

同十年 叡命りしとき阿部

對馬守重次之娘と娶

月十四日肥前深原より一丁の部

流一撥りとも末地の士民と割

りしが先 約命をとりて日向

かへり

翌の正月又重純の 命を懸して

日向より兵士と送りし日向

日向より兵士と送りし日向

同十八年三月にけりとも 約命と

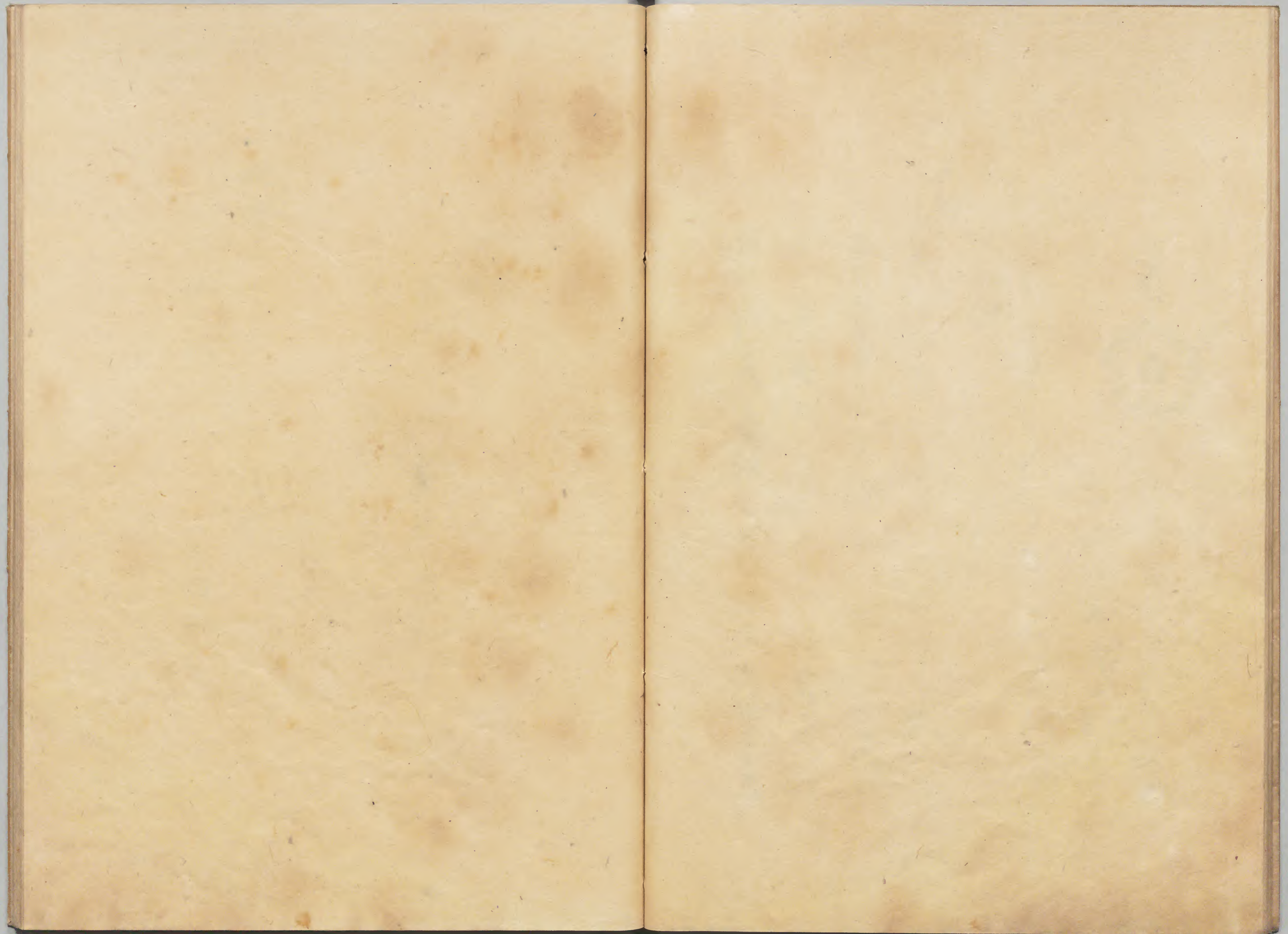
元純

八巻

三月に抑りて重純が遺領の内五万石
とせぬりる此外三千石と并え純
三月に抑りて重純が遺領の内五万石

家紋





●
純御

法部
少輔

徳純

大炊
物

大村

家内

純友
後裔

長良
代
伊豫
掾

純治

氏初大納

純休

孫太郎

純前

丹後守

純忠

氏部大納

純前やしつひく子とて実古有馬

修理大進晴純の子なり

喜京

丹後守 従五位下

元和二年八月八日卒

純頼

氏初大納 従五位下

元和五年十一月十日

純信

丹後守

童名松次

名和六日 八月十五日 父が

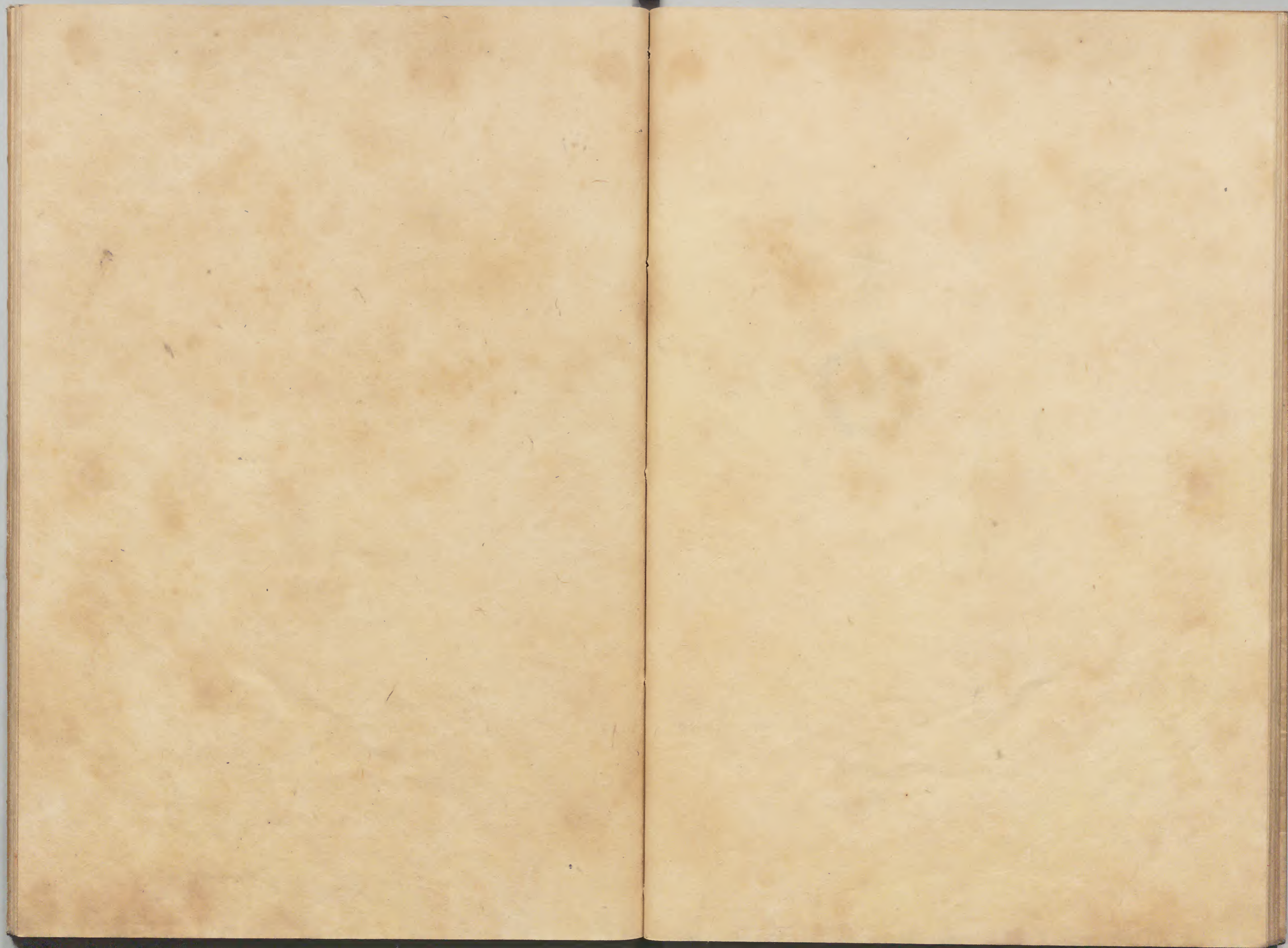
つぎ

名徳院殿

將軍家

家紋





良方りょうほう

藤人納言ふじのひとのつひ

冬嗣ふゆつぎ

後一位ごいちゐ

左大臣さだいじん

良方流りょうほうりゅう
糟屋ぞうや

元方

糟屋庄大支

久季

糟屋庄大支

家季

十郎大支
後家忠とありて

義忠

岡大支

光信

庄藤

威久

寺後控守

久ひさ繼つぐ

小八郎

威たけ持もち

六郎

延のぶ時とき

十郎兵衛尉

忠ちゅう清せい

兵衛六郎

法名はうな貞隆ちんりゅう

頼より忠ちゅう

真まこと忠ちゅう

七郎

行忠 ゆきただ

九郎

修理亮 しゆりりやう

恭忠 たかむね

七郎

修理亮 しゆりりやう

範忠 のりただ

十郎

忠安 ただやす

兵庫助 ひんぐろすけ

二浦 ふら 討死 うりし

相喜 あいき

修理亮 しゆりりやう

但馬守 たにまもり

仕込宗巴 しこけむねとら

政忠

与忠

字別よとしく地しん

東照大権現しん

六十歳少て死す 法名常春

吉成

吉成

十六歳少ときけりて

名(源)院敏しん

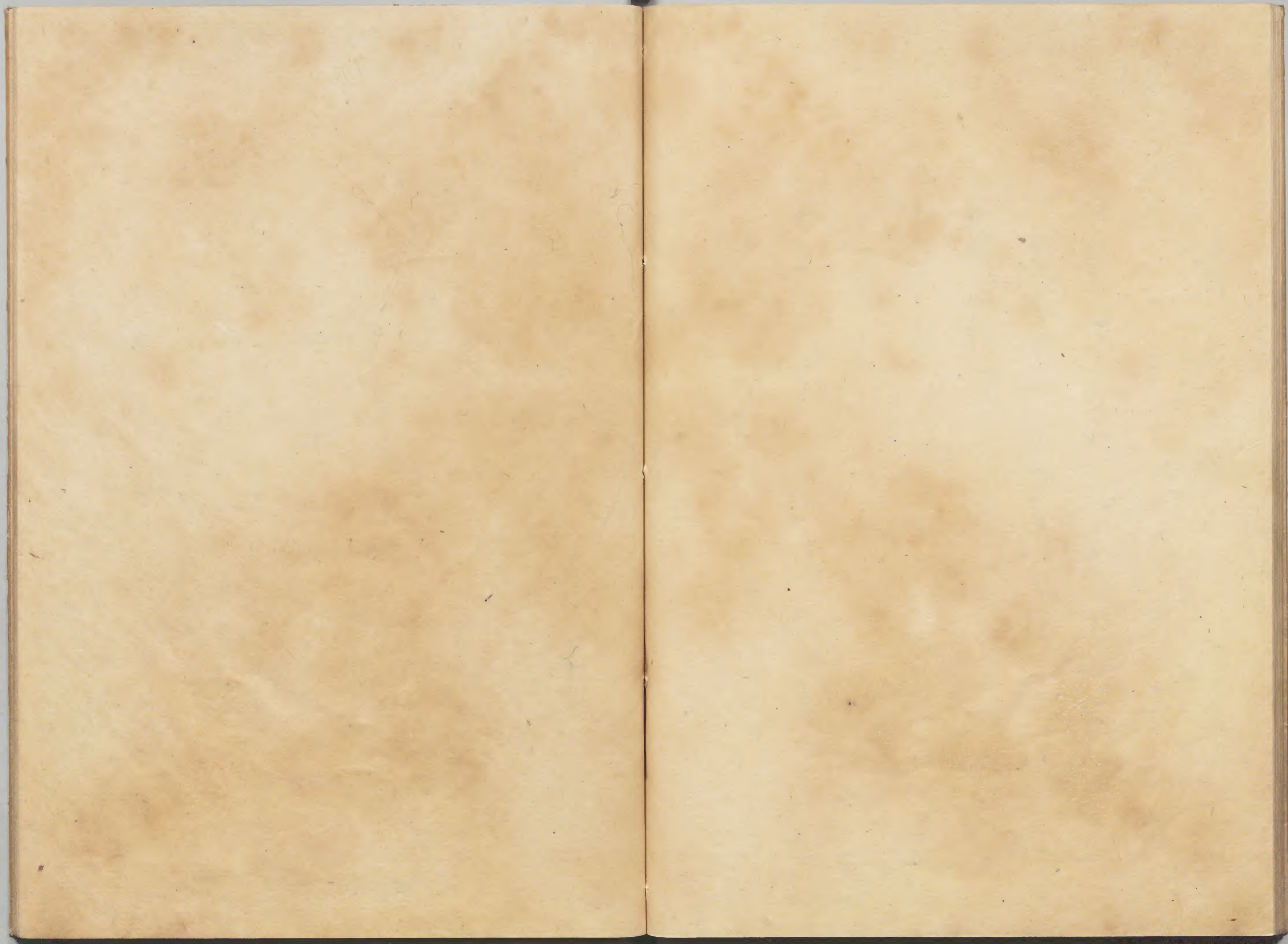
吉勝

吉勝

寛永十二のち

將軍家しん

家後 巴九三所



師尹流

堀内

家傳い右大臣實賴との

苗裔い實方と中納との末系と教と志と

堀内と稱と後白河と院の御宇子と

堀内と稱と後白河と院の御宇子と

小補と教と美と源と為と義の娘と立と回と

原と非と聖と後と為と義と教と實ととと名と面と

のちの鎌切と下劔と教士
のちの法永年中の教士が嫡子別
南徳増北劔と判官義経と起
りて下氏虎との裔なりけり
と極むるに教士別南徳の事
下劔をさし下氏虎とありけり
いへり劔巻は實頼との苗裔
事といふ所又堀内と称せり
且そのあひむる年代をいへり

るごとくも家系はまはしむ
らるるもとらむるに官本の系
と契と家系は實頼の才小一條
右大臣師平の孫實方此子長快
と徳野別南と号しとそ子を
徳快といひ徳快が子と徳増也
よおほむるに徳野別南あり
かゝるに家傳とそむい
れと誓て師平流と

王后

名酒院飯

將軍家

家紋桐菊

● 真久

同傳

法名 裡山常紀

混谷

家傳 一い 中 真方 後 混谷
 去方 部 東 下 奥 列
 南部 混谷 居 住 此 在
 混谷 と 称 之 也





